



宮城教育大学 ESD・RCEニュース



平成22年8月26日

第11号

宮城教育大学ESD・RCE推進会議から、学内外のESD・RCEの取り組みやニュースをお知らせします。

I. これまでのESD 関連事業報告

1. 平成21年度「日本/ユネスコ パートナーシップ事業」評価検討会（6月6日・日）

東京にて標記評価検討会を開催した。ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）事務局の宮城教育大学が、標記事業に申請を行い、ASPUnivNet 加盟大学へ再委託したもので、平成21年度の事業の評価を踏まえ、今後の実践に反映させるべく標記会議を実施した。評価委員の、国連大学高等研究所・高木宏明上席研究員、日本ユネスコ協会連盟・寺尾明人組織部長、アジアユネスコ文化センター・柴尾智子課長（代理出席）から、各大学や全体の取り組みに対する評価とコメント、文部科学省国際統括官付からは事業実施に対するアドバイスを頂いた。今後、ASPUnivNetとして、本日の評価やアドバイス等を平成22年度の事業に反映させ、ユネスコスクール加盟促進とユネスコスクールの質の向上を目指した支援を実践することを確認した。



2. IBM環境シンポジウム2010（6月8日・火 仙台国際センター） ↑

-持続可能な社会実現への協働- “美しき地球（ほし）へ、緑の風吹くみやぎから”と題したシンポジウムが開催された。村井宮城県知事の基調講演に続き、仙台広域圏ESD・RCE運営委員会委員長でもある本学の小金澤教授の特別講演「持続可能なみやぎ・仙台を創る～地域づくりの取り組みから～」と題した特別講演、環境活動のパネル展示、同時開催プログラムとして、「パワー・アップ環境教育授業」「エコハウスツアー」等が行われた。東北大学大学院環境科学研究科が青葉山キャンパス内に完成したばかりの施設見学では、川渡農場の間伐材を利用した木の香りが漂う“エコラボ”（ライフスタイルを変える、電池の社会）な建物だった。



3. テキサス ESD 訪問団来訪（6月9日・水）

米国テキサス ESD 訪問団（カリスバーク高校）が、今後の ESD 交流の進め方等を検討するために、本学を訪れた。スペイン語担当のリズ・ヴァンス先生とは、日本語も交えながらの会話となり、阿部連携理事とは、前回の訪問に続き2度目・「空手」の練習時間帯の交流となった。また、仙台国際センターにある仙台市とダラス市との国際友好都市シンボルの前で記念撮影を行った。翌日には、フルブライト日米教員交流校だった気仙沼市の小中高校や教育委員会を訪問した。



4. KODOMO バイオダイバシティ<蕪栗沼・周辺水田>湿地交流（6月19日・20日）

今年10月に開催される COP10 に向け、子どもたちと一緒に生物多様性条約と湿地のバイオダイバシティの重要性を考え、活動していこうというもので、昨年から2年計画で行われている。蕪栗沼・周辺水田は、世界に1888あるラムサール登録湿地のうち、世界でたったひとつ、その登録名称に「水田」という名前が入るユニークな湿地で、蕪栗沼と化女沼は世界の惑星の名前にもなった。今回の交流には、北海道から滋賀県までの子どもたちが参加した。



5. マダガスカル研修員学長表敬訪問（6月24日）・環境教育実践プログラム研修

仙台市八木山動物公園とマダガスカル共和国チンバザザ動植物公園の協力協定に基づく「自然環境保全に関わる環境教育実践プログラム研修」の一部を本学が受託し、本日は環境教育の講義とバタフライガーデン視察を終え、学長表敬訪問となった。

マダガスカル研修員は、約1ヶ月の間、日本にて研修を受ける予定で、本学では、「生物分類基礎」や「鳥類骨格標本の作製」などを受講する。



6. 気仙沼 ESD/RCE 推進会議 2010 (6月30日)

子どもと地域の未来を拓く円卓会議 2010と題した標記会議が気仙沼市立面瀬小学校において開催された。本会議には、環境省総合環境政策局環境推進室長、文部科学省大臣官房国際課人物交流係長、フルブライト・ジャパン事務局長、本学から藤田国際理解教育研究センター長、小金澤仙台広域圏 ESD・RCE 運営委員長、市瀬教授、棟方・吉田准教授、浅沼東北大学大学院環境科学研究科准教授等約150名が出席した。また、第3部・総括セッションでは、本学卒業生・現日本学術振興会特別研究員 PD (お茶の水女子大) の小田隆史氏が指定討論者として参加した。



7. 第2回仙台広域圏学びあいセミナー・東北大学大学院環境科学研究科 (7月28日)

「持続可能な社会へ向けた環境科学研究科の役割」と題したセミナーを、標記研究科の新棟・エコラボで開催した。当日はオープンキャンパスも実施していたため、高校生の参加もあり、講師の佐竹正夫研究副科長から、高校生へ、「まず学部において、専門的なことをきちんと勉強すること、研究の考え方を学ぶこと」などのアドバイスがあった。

今後も、東北大学の「グローバルな学際融合」と宮教大の「地域に根ざした活動」など特徴を生かしながら連携していくことが望まれる。



8. 第15回 ESD 関係機関間情報交換会 (7月29日)

文部科学省、環境省、外務省、国連大学、国立教育政策研究所、ACCU、日本ユネスコ協会連盟、東京大、本学等のメンバーによる標記交換会が国連大学において開催された。

地球環境戦略研究機関 (IGES) 持続センターの「環境教育人材育成コンソーシアム」では、今後、環境教育に関連したデータベースを構築していくことから、本学の“えるふえ”や、仙台広域圏における“地域を支援するネットワーク等”との連携の提案があった。

9. いぐねの学校 (8月1日)

仙台いぐね研究会による、「第10回いぐねの学校」が、名取市の洞口家（宅地面積1500坪周囲は幅3mの堀と、いぐね（防風林）に囲まれた《国指定》有形文化財建造物）にて開催された。今回も、天候に恵まれ、子どもたちの姿に混じって、父兄の参加も目立った。子どもたちは、1時間目「植物観察」、2時間目「稲と生き物の観察」、3時間目「給食のしたく」、4時間目「草木染め」、その後、帰りの会と、仙台いぐね研究会メンバーや宮教大のお兄さん、お姉さんたちと楽しい一日を過ごした。



10. ママチャリキャラバン “本学のESD取組を勉強する” (8月18日・水)

「ママチャリキャラバン」とは、関東の様々な大学から有志を集めてつくられた団体で、“学生団体”という形ではなく、ママチャリキャラバンのために集められた学生たちであり、14大学およそ20名が運営しています。2010年2月7日から9月8日まで、ママチャリで日本一周をしながら47都道府県でワールド・カフェを開催、愛媛大学の院生より、本学のESDの取組を是非勉強するようとのアドバイスを受け、来訪。見上副学長とのESD談話会（約1時間30分）後、翌日、福島に向かって出発。



II. 今後の予定

- ☆ 9月10日～11日（金～土） ESD世界の祭典・HESD会議（立教大学）
- ☆ 9月23日（木・秋分の日） 宮城教育大学舞踊発表会～地域の伝統文化と教育～
- ☆ 10月29日（金） ユネスコスクール全国大会サイドイベント（附属小学校）
- ☆ 10月30日（土） ユネスコスクール全国大会（本学）
- ☆ 10月31日（日） フラグシッププロジェクト・推進ワークショップ（本学）

※原稿を募集しています。kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp まで